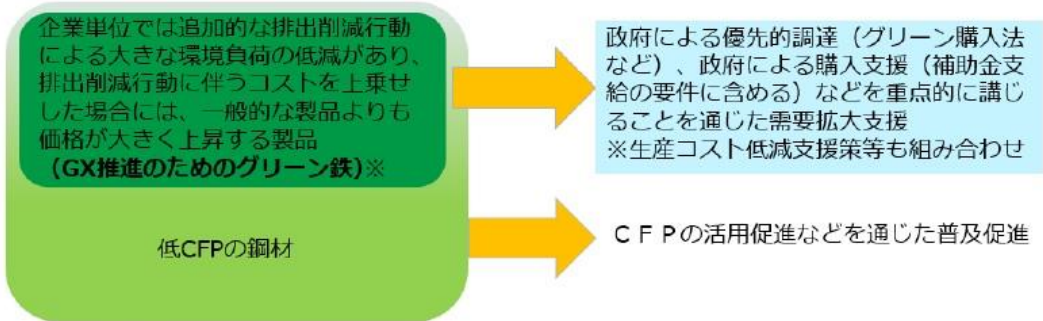


GX推進のためのグリーン鉄研究会とりまとめを受けた当連盟の取組状況

GX推進のためのグリーン鉄研究会とりまとめ（抜粋）

- こうした手法（注：当連盟提案のアロケーション方式）がLCA やCFP、GX 推進の考え方などに照らして妥当なものであるかは、専門家による議論が行われるべきである。そうした議論の結果妥当なものと認められる場合には、鉄鋼製品について、そうした議論を反映した形でCFP の製品別算定ルールを策定し、併せて国のカーボンフットプリントガイドラインに反映することが考えられる。
- 非化石証書を活用した鋼材について、非化石証書の鋼材への割り付け方等の運用方法については様々な方法が考えられ、運用の透明性を確保する上でも、鉄鋼業界内で広く議論が行われ、検討が深まっていくことが期待される。
- また、低いCFP の鋼材と、GX 推進のためのグリーン鉄の間の整合的整理ができたならば、政策コストの効率化につながる。



※上図では「GX推進のためのグリーン鉄」は、「低CFPの鋼材」の内数としているが、CFPとの関係整理が今後必要

	鉄連取組状況
1. 鉄鋼製品に関する製品別 CFP算定ルール (2,3に繋がるCFPの算定方法などを包括的に示すもの)	◆ カーボンフットプリント ガイドライン(2023年5月 経済産業省/環境省)に基づく「製品別算定ルール」の鉄鋼版を策定する(2025年秋目途) ◆ 鉄連会員・普電工会員関係者、学識者(アドバイザー)、政府関係者(オブザーバー)が参加する検討会議体を設置し策定を進める。第1回会合4/23予定 ◆ 研究会とりまとめにある「国のカーボンフットプリントガイドラインに反映」することを最終ゴールとする 【検討体制】 鉄連 ・高炉メーカー ・特殊鋼電炉メーカー ・普通鋼電炉メーカー 学識者:工藤先生、稲葉先生 政府:金属課、GX推進企画室
2. 削減実績量を反映した グリーンスチールガイドライン	◆ 現行ガイドライン(証書方式)については、worldsteelガイドライン(2024年11月公表)を踏まえた部分修正を行い2025年2月に第3版を公表。 ◆ 引き続き、worldsteelや他国鉄鋼業と対話し、アロケーション方式にかかるガイドラインの策定(鉄連版、worldsteel版)を進める(2025年秋目途) ◆ COP30のサイドイベントにて新たなガイドラインの世界発信を行う
3. 再エネを活用した鋼材の ガイドライン	◆ 普通鋼電炉工業会内のWGで策定が進められてきたガイドラインについて、同工業会関係者と協議の結果、鉄連内に新たに設置する鉄連会員メーカーと普電工会員メーカーが参加する会議体に検討の場を移すことを合意。 ◆ 1、2と整合的に整理されたガイドラインの策定を進める(2025年秋目途)

需要業界側のCFP算定ルール等との整合をとるべく、引き続き丁寧に対話していく